

スペイン語の名詞句における形容詞の等位接続⁽¹⁾

La coordinación copulativa de adjetivos en el sintagma nominal

三 木 一 郎
Ichiro MIKI

0. 序

0.1. 本稿の関心

形容詞が名詞句において接続される用法は多岐にわたっている。本稿ではその接続の可能性及び不可避性を等位接続の条件と参照しながら検討してみたい。

0.2. 検討対象

- (1) Un temor [íntimo y fable] (Cela, C. J., *Viaje a Alcarria*, 10)
- (2) [gozoso y saludable] camino (*Ibid.*, p. 10)
- (3) *novela⁽²⁾ [policíaca y estupenda]
- (4) *partido [socialista y japonés]

本稿では2つの形容詞が1つの名詞を修飾する場合を取り扱うが、(1), (2) と (3), (4) を比べた場合、相反する構造を持っていることに注目すべきである。(1) と (2) は2つの形容詞は等位接続を強いられ、(3) と (4) は逆に等位接続は不可能である。この現象について次の各項目に沿って考察を進めていきたい。

1. 形容詞の位置関係

形容詞の位置に関する研究は数多く出ているが、⁽³⁾ おおよそは次の2つに分けられる。

(a) 限定形容詞は通常後置される。

- (5) economía española
- (5a) *española economía

(b) 叙述形容詞は前置も後置も可能である。位置の自由は限定形容詞の位置が有標であるのに対して叙述形容詞は無標であることによる。⁽⁴⁾

- (6) afectuoso saludo
- (6a) saludo afectuoso

2. 全体的言及／部分的言及

一つの名詞が2つまたはそれ以上の形容詞を伴う場合、その言及が全体におよぶものか部分的なものかを区別する必要がある。

(7) vino tinto español

この場合の解釈はワインすべてが赤で、かつ同時にスペイン産である。従って全体的言及と考えられる。しかし次の場合は部分的言及の解釈しかありえない。

(8) bandera roja y blanca

なぜならば1つの旗が全部赤で、かつ同時に全部白ということとはありえないからである。たとえ旗の片面が赤で、もう片面が白という場合でも部分的言及と考えられる。

さて次に2つの形容詞が接続される可能性を見てみたい。⁽⁵⁾

3. 不可能な連結等位接続

(a) 2つの形容詞が両方とも限定形容詞であり、かつ全体的言及の場合。

N Adj. especi. Adj. especi.
vino tinto español
sello postal alemán

この場合、もし接続詞によって連結したり、また位置を入れ替えた場合は非文となる。

*vino tinto y español
*tinto español vino
*español vino tinto
*tinto vino español

(b) 2つの形容詞のうち一方が限定形容詞で他方が叙述形容詞の場合。

N Adj. especi. Adj. expli. (Adj. expli. N Adj. especi.)
novela policiaca estupenda
estupenda novela policiaca
*novela policiaca y estupenda

4. 連結等位接続を強いられる場合

(a) 2つの形容詞が両方とも叙述形容詞の場合。

Adj. expli. y Adj. expli. N (N Adj. expli. y Adj. expli.)
gozoso y saludable camino⁽⁶⁾
camino gozoso y saludable

この構造に関しては Carmen Bodes Naves⁽⁷⁾ と Guillermo Rojo⁽⁸⁾ との間に激しい論争が生じている。前者はこの語句を次のように接続詞“Y”を用いた語句に置換できるとしているが、後者はそれを否定している。

N Adj. expli. y Adj. expli. ←————→ Adj. expli. N Adj. expli.
árbol alto y frondoso ←————→ alto árbol frondoso

(b) 2つの形容詞が両方とも限定形容詞で、かつ部分的言及の場合。

N Adj. especi. y Adj. especi.
bandera roja y blanca

このケースは接続詞を省いたり順序を入れ替えると非文となる。

- *bandera roja blanca
- *roja y blanca bandera
- *roja bandera blanca
- *blanca bandera roja

これまでのケースを体系的に要約して一覧表にすると次のようになる。⁽⁹⁾

N : 核 (名詞) + : 可能
A : 形容詞 - : 不可能
PP : 後置
AP : 前置

			(1)	(2)	(3)	(4)
			A ₁ + A ₂ = especi.	A ₁ + A ₂ = expli.	A ₁ = expli. A ₂ = especi.	A ₁ = especi. A ₂ = expli.
(A)	PP sin CC	N A ₁ A ₂	+	-	-	+
(B)	PP con CC	N A ₁ y A ₂	-/+	+	-	-
(C)	AP y PP	A ₁ N A ₂	-	+	+	-
(D)	AP con CC	A ₁ y A ₂ N	-	+	-	-
(E)	AP sin CC	A ₁ A ₂ N	-	-	-	-

次に+ (可能) の場合の例をあげてみる。

- A 1) crisis económica mundial
- A 2) -
- A 3) -
- A 4) pan integral sabroso
- B 1) (-)
(+) bandera roja y blanca
- B 2) obra lúcida y magna (Jiménez, *Platero y yo*, 47)
- B 3) -
- B 4) -
- C 1) -
- C 2) innútiles velas lacias (Laforet, *La isla y los demonios*, 11)
- C 3) sabroso pan integral
- C 4) -
- D 1) -
- D 2) lúcida y magna obra

- D 3) -
- D 4) -
- E 1) -
- E 2) -
- E 3) -
- E 4) -

5. 等位接続不可能の原因

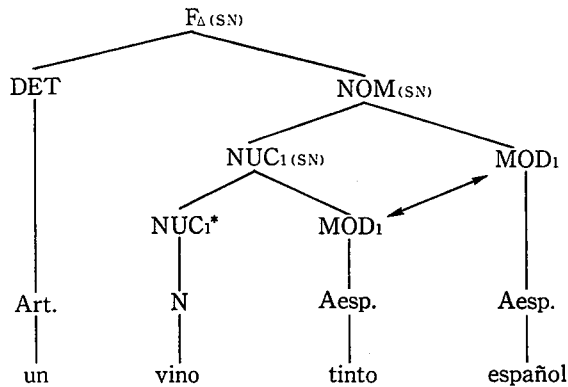
3. の(a)(b)で次のようなケースは等位接続が不可能であることを概観してきたが、ここではその原因について触れてみたい。

- (a) N Adj. especi. Adj. especi. (全体的言及)
- (b) N Adj. especi. Adj. espli.

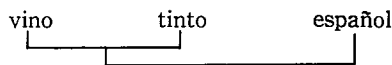
まずこの構文は等位接続の条件の1つである機能的同一性⁽¹⁰⁾を満たしていないのであろうか。すなわち2つの形容詞には統語上の機能の相違があるのだろうか。(a)に関してはまったく相違はない。(b)に関して言えば、生成変形文法学者の中には2つの形容詞に差異がある故に接続は不可能とするものがある。しかし、この考えに対しては異論がある。次のように変形文法でいう異った起源の要素同士が何の支障もなく接続できる場合があるからである。⁽¹¹⁾

(9) una novela *interesante y de cuyo autor nada sabemos*

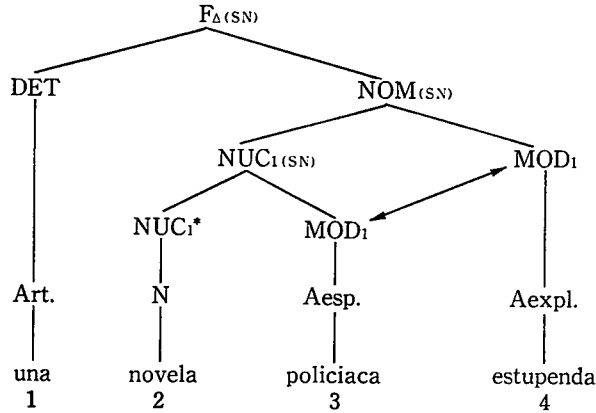
さて、それでは等位接続を不可能にしている理由は何であろうか。次の図が示す通り明らかに等級レベル⁽¹²⁾の違いによるものと考えられる。まず(a)の N Adj. especi. Adj. especi. (vino tinto español) の場合を見てみよう。



この場合、次のように形容詞 tinto は名詞 vino を修飾し、同時に vino tinto 全体を español が修飾している。



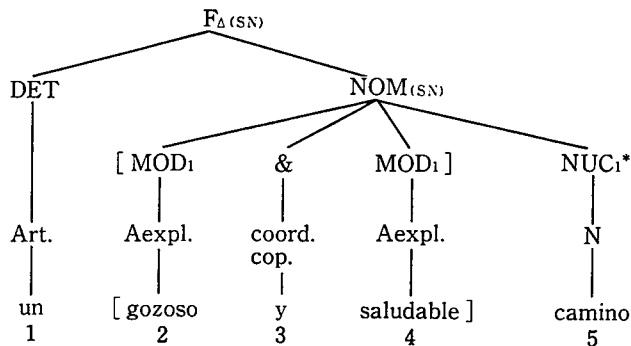
(b) の N Adj. espaci. Adj. expli. (novela policiaca estupenda) の場合も全く同じ構造である。



唯一の違いは語順を 1. 4. 2. 3. (una estupenda novela policiaca) と入れ替えることが可能な点である。(a)

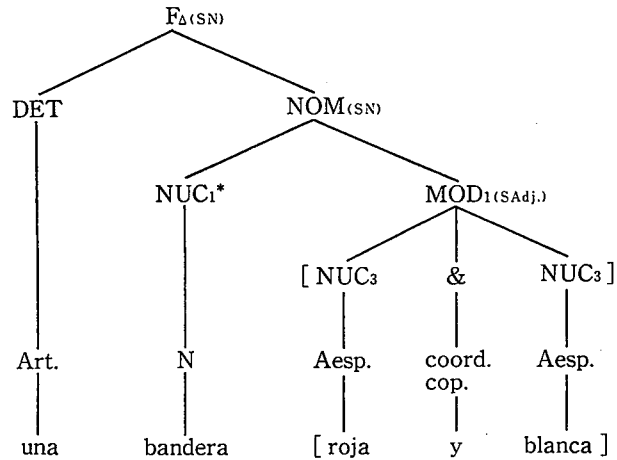
(b) いずれの場合も接続が不可能なのは等級レベルの違いであることに変わりはない。

一方、等位接続を強えられる場合を見てみよう。



図を見ての通り機能的同一性があるうえに同じ等級レベルであることがわかる。尚この場合も語順を 1. 5. [2. 3. 4.] (un camino gozoso y saludable) と入れ替えても統語論上は変らない。

もう1つのケース (bandera roja y blanca) に関しては専門家の間でかなりの見解の相違がある。Rojo³³⁾ は、これは前述の gozoso y saludable camino と同じパターンであるとなししている。従って彼の理論では全体的言及と部分的言及の間には相違はないことになる。³⁴⁾ 一方 Dik³⁵⁾ は部分的言及の2つの形容詞が一緒になって1つの名詞核の修飾部を形成するという意味から言えば、構造上の違いがあると推測すべきであると判断している。これを図に示すと次のようになる。



この点に関して筆者は後者の理論が望ましいと考える。何故ならば2つの付加形容詞は *bandera* に対して意味論上は1つの単位としての働きを持っているからである。言いかえれば *una bandera roja y blanca* は *una bandera roja y una bandera blanca* を意味しないことが明らかなためである。

6. 結論

以上の考察をまとめ次の点をもって本稿の結論としたい。

- 6.1. 名詞を修飾する2つの形容詞が等位接続できるのは、2つとも叙述形容詞の場合と2つとも限定形容詞で、かつ部分的言及の場合である。
- 6.2. その他のケースが接続不可能な理由は2つの形容詞の間には機能的同一性があるものの同じ等級レベルでないためである。

なお本稿では叙述形容詞と限定形容詞のみを見てきたが、他の形容詞で機能的同一性があり、かつ同じ等級レベルの場合でも接続できない場合がある。

*mi y tu hijo

また本稿では扱わなかったが名詞と形容詞の場合には逆に機能的同一性がないのに接続が容認される例がある。

[Mentira y podrida], buñolera. (García Pavón, *Las Hermanas Coloradas*, p. 15)
Tenía [dolores y grandes].

このようなケースの統語論上の解釈をめぐる考察が今後の課題となるであろう。

注

- (1) 本稿は1991年5月19日、上智大学で開かれた日本ロマンス語学会第28回大会での口頭発表に加筆、修正を施したものである。貴重な御意見、コメントを下さった諸先生方に厚く御礼申し上げます。
- (2) *印は非文を表わす。
- (3) Lapesa, R. 1975, Sobejano, G. 1970, Esbozo, 1973 参照。
- (4) この点に関する詳細は César, S. 1979 参照。
- (5) わかりやすくするために、ここでは連結される形容詞が2つの場合に限定する。もちろん3つ以上の場合も可能であり、同じ機能、条件を有することは言うまでもない。
(例) partido socialista portugués reformado
- (6) このタイプは主観的描写を表わすテキストの中に頻繁に見られる。
un robusto e inteligente anciano (Fernández, J. A. *Doñana*, p. 55)
el esbelto y veloz cazador (p. 65)
una extraña y desagradable sorpresa (p. 68)
tonos pálidos y confusos (p. 110)
- (7) Bobes Naves, C. 1976 参照。
- (8) Rojo, G. 1975, 1976 参照。
- (9) この表がすべての可能性を完璧に網羅したものでないことは言うまでもない。
- (10) スペイン語の形容詞のみならず、他言語でも2つ以上の語句が接続されるためには統語論上色々な条件がある。その1つが「機能的同一性」である。詳しくは Gleitman, L. 1965, Dik, S. 1968, Coseriu, E. 1968, Martínez, J. 1978, 拙稿 1990 を参照。
- (11) 本稿は生成文法上の理論を扱うものではないが、この点に関して詳しくは
Sloat, C./Malsch. D. L./Taylor, S. H.; 1978, "Conjunction: an impasse for transformational grammar," en: *Glossa* 12, p. 217-232.
を参照。
- (12) 注(10)と同じくこの「同じ等級レベル」も等位接続の重要な条件である。詳しくは
Dik, S. 1968, Echaide, A. M. 1974, Barrenechea, A. M. 1977, Lang, E. 1984, 拙稿 1990
を参照。
- (13) Rojo, G. 1975, p. 215 参照。
- (14) Rojo 自身はこのテーマについて、全体的言及/部分的言及という区別をつけて論じているわけではない。
- (15) Dik, S. 1968, p. 218 参照。

Bibliografía

- Alcina Franch, Juan/Blecua, José Manuel, 1975, *Gramática española*, Barcelona (Ariel).
- Antoine, Gérald, 1959-62, *La coordination en français*, 2 vols. Paris (Artrey).
- Barrenechea, Ana María, 1974, "Problemas semánticos de la coordinación", *Estudios filológicos y lingüísticos* Carácas (instituto Pedagógico), p. 83-96.
- Bello, Andrés, 1981 (1847), *Gramática de la lengua castellana*, edición crítica de Ramón Trujillo, Santa Cruz de Tenerife (Instituto Universitario de Lingüística).
- Bobes Naves, María del Carmen, 1972, "La coordinación en la frase nominal castellana, I y II", *Revista Española de Lingüística*, 2, 2, p. 285-311 y 3, 2, p. 261-295.
- Bobes Naves, María del Carmen, 1976, "Nuevas observaciones sobre la coordinación en la frase nominal," *Verba*, 3, p. 91-100.
- Coseriu, Eugenio, 1977, "Coordinación latina y coordinación románica", *Estudios de Lingüística Románica*, Madrid (Gredos), p. 203-230.

- Dik, Simón C., 1968, *Coordination: Its implications for the theory of general linguistics*, Amsterdam (North-Holland Publishing company).
- Echaide, Ana María, 1974, "La coordinación adversativa en español: Aspecto sincrónico", *Revista de Filología Española*, 57, p. 1-32.
- Gleitman, Lila R., 1965, "Coordinating conjunctions in English", *Language*, 41, p. 260-293.
- Lang, Ewald, 1984 (1977), *The semantics of Coordination*, Amsterdam, (Benjamins B. V.).
- Lapesa, Rafael, 1975, "La colocación del adjetivo calificativo atributivo en español", *Libro de Homenaje a la memoria de D. A. Rodríguez*, Madrid (Castalia).
- Lázaro Carreter, Fernando, 1977, *Diccionario de términos filológicos*, Madrid (Gredos).
- Luz Gutiérrez, María, 1978, *Estructuras sintácticas del español actual*, Madrid (Sociedad General Española de Librería SA).
- Martínez Marín, Juan, 1978, *Sintaxis de la Celestina, I: La oración compuesta*, Universidad de Granada (Colección Filológica 27).
- Real Academia Española, 1973, *Esbozo de una nueva gramática de la lengua española*, Madrid, (Espasa-Calpe).
- Rojo, Guillermo, 1975, "Sobre la coordinación de adjetivos en la frase nominal y cuestiones conexas", *Verba*, 2, p. 193-224.
- Rojo, Guillermo, 1976, "Réplica a Nuevas observaciones sobre la coordinación en la frase nominal", *Verba*, 3, p. 101-125.
- Sobejano, Gonzalo, 1970, *El epíteto en la lírica española*, Madrid (Gredos).
- 拙稿 1990, "Las condiciones sintácticas de la coordinación copulativa en español", 京都外国語大学研究論叢第36号 p. 395-410.